

## 里山&清流で生きものと出会いが面白い

### *A Village and Collecting of the Vigor of Interesting*

岩崎行伸

“還暦”という、人生の節目を過ぎ去ると（1999）、これまで労働・勤務・執務等々をしてきた専門的工作や諸活動から多くの人は、その世間現場から退任（2001）し責任度から離脱することになる、小生も、その一人である。

其々に、第一の人生道を終えて第二の人生の道へと模索しながら出発・進行することになるが、その年輪を幾つか積み重ねること、俄かに体力・気力・活力・集中力・視認・聴力等々が体全面にかけて緩やかにそして急にやってきて、一時の間に留まり思案の連続である。精神的ストレスは発散できず、寧ろ多く厚く積ってくる毎日であったような気がする。

このような時には、今後の生き方や道楽・趣味や諸活動等について無理せず、これまでの習慣・惰性に清流のごとき河口部汽水域に流れ出ることが大切と思う。

私事の独り言でいうと、四季・自然観察の折り、生きもののうちで淡水魚やエビ・カニ・カエル・バッタ・蝶・蜻蛉・蟬等々を釣り具やタモ網などで掬い集めてから飼慣らしつつ、その生育・成長等につれて測定記録・生態観察写真を撮ったり、編集・種々の検索をすることに熱中し、このため、暗いトンネルから抜けて迷いから解放・目覚めの日の出を見たように記憶する。この時期は既に誰でも何時“古希”の節目期に這入って、迷わず第三の人生道程へ手抜きしながら一つつつ歩を進めることとなる（2010）。

“古希”という漢字を覚えたのは、体調を崩してからであるが、このことは、大昔の漢ノ国から伝承したという。現代の世間では、急速に医療学的進歩によりさほど稀有な数ではないが、わが国は熟々老人超大国時代に入ってきたといえよう。

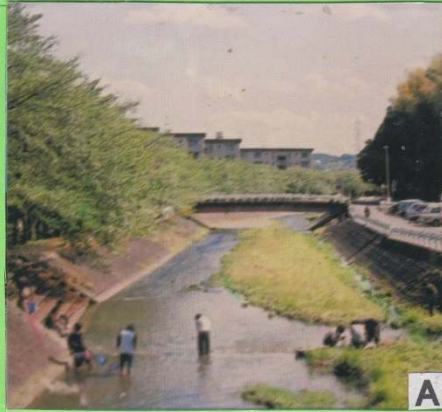


図1. 生きものを集めるのが面白い (A: 塩田川 (清水/静岡)  
B: 鶯 (野鳥/馬走)、C: ツマグロヒョウモン (蝶/馬走)、  
D: オオカワトンボ (蜻蛉/船越堤公園)、E: ツチイナゴ  
(昆虫/馬走)、F: サワガニ (水棲種/興津川)

Photo by Y. IWASAKI

さて、この年輪を濃く刻むと、最も気になることは、体調等は略-5~+5ヶ  
輪紋の個人的差異があるも、多くの人？は呆けと無気力へと急流のごとく下向  
傾向となることである。この心境を克服するには、日頃の趣味及び道楽的活動  
や蒐集能力が衰える現状を維持・管理できると確信・自負・自己満足・不満  
を繰り返している？、自問自答の連日である。

この輪紋は既に後期高齢者の仲間入り、“喜寿”(2013)の歳、今日この  
頃である。果たして、明日にもコロリ&バタンキューに至るという願望を何時  
もながら考え行動しているのである。

参考文献：1) 観察図鑑・①昆虫、改訂版、0文社編集：(1998)

2) My HP “私が歩いてきた道”「光と影と彩の旅へ第18部、  
第1000~1065号、Google&Yahoo, 岩崎行伸編集

添付資料：図1、生きものを集めるのが面白い(富士山・野鳥・蝶・蜻蛉・昆  
虫・水棲種)

---

還暦・古希そして喜寿に寄せて、会員：自然観察研究会(水棲&環境研究)